

2020 年度支部長会・各種委員会活動報告

・ 支部長会	2 頁
・ 将来構想委員会	3 頁
・ 感染症対策委員会	3 頁
・ 財務委員会	4 頁
・ 企画・広報委員会	5 頁
・ 倫理委員会	6 頁
・ 利益相反委員会	7 頁
・ 編集委員会	8～9 頁
・ 全国集計委員会	10 頁
・ 認定医制度委員会	11 頁
・ 試験委員会	12 頁
・ ブラッシュアップ小委員会	13 頁
・ 教育・研修委員会	14～15 頁
・ 学会賞受賞者選考委員会	16 頁
・ 胃がん検診精度管理委員会	17 頁
・ 大腸がん検診精度管理委員会	18 頁
・ 検診従事者委員会	19 頁
・ 胃がん検診専門技師認定委員会	20 頁
・ 超音波検診委員会	21 頁
・ 胃 X 線読影補助認定委員会	22 頁
・ 大腸 CT 検査技師認定委員会	23 頁
・ 腹部超音波検診判定マニュアルの改訂に関するワーキンググループ	24 頁
・ 胃 X 線検診における DRL（診断参考レベル）策定小委員会	25 頁
・ 対策型胃内視鏡検診の精度管理に関するワーキンググループ	26 頁

支部長会

担当理事：渋谷大助（理事長）

支部長：北海道 松浦邦彦

東北 加藤勝章

関東甲信越 入口陽介

東海北陸 乾和郎

近畿 平井都始子

中国四国 井上和彦

九州 松浦隆志

委員会開催：0回

1. 2020年度はコロナ感染症対策を鑑み、開催なしだが、理事会（WEB）にて活動報告された。

将来構想委員会

担当理事：渋谷大助（理事長）

委員：乾 和郎、井上和彦、入口陽介、加藤勝章、野崎良一、平井都始子、松田一夫

委員会開催：0回

新型コロナ感染拡大の影響により開催せず

感染症対策委員会

担当理事：渋谷大助（理事長）

委員：加藤勝章、野崎良一、平井都始子

外部委員：賀来満夫（東北医科薬科大学感染症学）

委員会開催：2回（メール審議）

1. 「消化器がん検診にあたっての新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応について」の提言を第1～5報を学会HPに公表した。

財務委員会

担当理事：乾 和郎

委員：井上和彦、小川真広、永尾重昭

委員会開催：3 回

1. 2019 年度財務諸表の確認と審議

2. 2020 年度補正予算

新型コロナウイルス感染症対策による本部（総会・各研修会）の再審議

○事業活動収入について

- ・各研修会において、Web 開催により受講者数を増やし増収を見込んでいる。
- ・総会では、参加費・協賛金・寄付金・展示それぞれの減収を見込んでいる。

以上の結果、事業活動収入は約 1 億 1 千万円余を見込んでいる。

○事業活動支出について

- ・各種研修会においては、会場費・運営費は支出減となり、委託費は支出増を見込んでいる。
- ・総会では、会場費・会議費・委託費などは支出減となり、広報費は支出増を見込んでいる。

以上の結果、事業活動支出は約 9 千万円を見込んでいる。

3. 2021 年度予算

本部の予算、7 支部予算の審議

1) 本部

○事業活動収入について

- ・正会員は減少するが、一般会員は増加傾向にあり会費収入は約 7 千万円を見込んでいる。
- ・事業収入では、認定手数料は増加、研修受講料は減少傾向にあり減収を見込んでいる。
- ・学術集会収入では、参加費・協賛金・展示・広告・寄付金はそれぞれ増収を見込んでいる。

以上の結果、事業活動収入は約 2 千万円の増収を見込んでいる。

○事業活動支出について

- ・総会で、会場費・運営費・委託費などそれぞれ支出増を見込んでいる。

以上の結果、事業・管理費支出は約 1 億 2 千万円を見込んでいる。

4. 2) 支部

○収入について

- ・支部運営経費は会員数による本部からの補助金が主収入であるが、一部の支部で賛助会費（年会費）を徴収している。

○支出について

- ・支出は地方会、各種研修会の運営に伴う使途が主体であり、概ね昨年度実績を参考に計上されている。

5. 全体の収支について

法人全体では、正味財産期末残高は約 2 億円余りとなり、前年度比で約 8 百万円余りの増加を見込んでいる。

企画・広報委員会

担当理事：松浦隆志

顧問：吉原正治

委員：鎌田智有、齋藤洋子、満崎克彦、平井都始子、平賀聖久

委員会開催：0回

1. 会員への情報発信の「メールマガジン」を定期及び臨時号を配信した。
2. ホームページアクセス集約を行なった。

倫理委員会

担当理事：岡 政志

副委員長：大西洋英

顧問：乾 和郎

委員：小林 隆、川口 淳、齋藤洋子、阪上順一

外部委員：久津見 弘、若林昭子、亙理 茂

委員会開催：3回（Web会議1回、持ち回り2回）

1. 倫理審査

1件の申請があった。

2. 倫理指針について

本学会倫理指針をJDDW2021の倫理指針に合わせ2020年12月21日に改正した（施行日：2021年1月1日）。

3. 倫理指針に関する講演会について

第59回総会で倫理指針に関する講演会が開催され、53名に受講証書を交付した。

「臨床データの取り扱いと規制—薬機法・臨床研究法・医学系指針・個人情報—」

演者：久津見弘（滋賀医大 臨床研究開発センター）

司会：乾 和郎（山下病院）

利益相反委員会

担当理事：乾 和郎

委員：上野義之、阪上順一、西田 博、西野善一、源 利成

外部委員：亙理 茂

委員会開催：1回（メール審議）

1. 内科学会の共通指針の改正により、学会の指針・細則について検討し、理事会で承認を得て改正した。

なお、申告書提出者の対象の特定委員会に「役員候補者詮衡委員会」を追加した。

2. 指針・細則の改正に伴い、各種様式を改訂した。

編集委員会

担当理事：西田 博

委員：安保智典、井岡達也、伊藤高広、岡庭信司、小田丈二、金岡 繁、鎌田智有、阪上順一、鈴木康元、中島滋美、
廣岡芳樹、間部克裕、安田 貢、山道信毅、渡 二郎

委員会開催：7回（Web 1回、持ち回り6回）

1. 原稿依頼について

執筆依頼を下記演者に行った。

- ・総会、大会：講演、主題、一般演題（デジタルポスターセッション）は、司会（座長）推薦の演題。
- ・地方会：講演、主題は、司会推薦の演題。

2. 投稿・査読状況

(1) 年度別投稿数の推移

年度	総投稿数	会長講演	総説	原著	経験	症例報告	この症例に学ぶ	Letter to the Editor
2018	34	1	1	25	3	4	0	0
	投：12	依：1	投：0	投：8	投：1	投：3		
	依：22		依：1	依：17	依：2	依：1		
2019	43	2	3	30	2	5	0	1
	投：16	依：2	投：0	投：12	投：0	投：3		投：1
	依：27		依：3	依：18	依：2	依：2		依：0
2020	38	2	3	29	2	2	0	0
	投：17	依：2	投：0	投：14	投：1	投：2		
	依：21		依：3	依：15	依：1	依：0		

(2) 2020年度論文種類別新規投稿数および採択論文数

（投稿期間 2020. 4. 1～2021. 3. 31、採択率 2021. 4. 27 現在）

種別	新規投稿数	2020年度採択・不採択論文数 内訳		
		採択数	不採択数	採択率
会長講演	2	2	0	100%
総説	3	3	0	100%
原著	29	12	7	41%
経験	2	1	0	50%
症例報告	2	2	0	100%
この症例に学ぶ	0	0	0	0%
Letter to the Editor	0	0	0	0%
計	38	20	7	53%

注) 審査中の論文があるので採択数と採択率は高まる可能性がある。

(3) 論文受付から初回審査結果までの平均査読日数

平均査読日数
19.8日

3. 掲載内容について

1) 論文内容の最終確認は、持ち回り委員会に於いて行った。

2) 主な掲載は下記のとおりである。

- ・ 58 巻 3 号は委員会報告「胃 X 線検診読影補助のための読影判定区分の運用指針」を掲載した。
- ・ 58 巻 suppl (1) 号は「第 59 回総会プログラム・抄録集」を掲載した。
- ・ 58 巻 5 号は第 57 回大会の会長講演を掲載した。
- ・ 58 巻 suppl (2) 号は「第 58 回大会 (JDDW2020) プログラム・抄録集」を掲載した。
- ・ 59 巻 1 号は、久道茂先生の追悼文、第 58 回大会の会長講演、委員会報告「平成 29 年度全国集計報告」「全国集計報告 (第 59 回総会)」「平成 29 年度胃がん検診偶発症アンケート調査報告」を掲載した。

4. 早期公開導入について

本学会雑誌に投稿された論文をいち早く読者に提供する手段として、2021 年 4 月より「J-STAGE」の機能である「早期公開」を導入することになった。

5. 委員交代について

- ・ 石川勉委員の退任により、小田丈二先生（東京都がん検診センター）が就任された。
- ・ 査読論文中の統計処理の疑義に対してコメントをいただくために外部委員に服部聡先生（大阪大学大学院 医学系研究科情報統合医学講座 医学統計学）の就任を理事会に提案し承認された。

6. 機関誌掲載論文数

掲載論文数 37 編（内訳：投稿 14、依頼 23）

7. 機関誌掲載内訳

	第 58 巻 3 号～第 59 巻 2 号 (2020 年度)	第 57 巻 3 号～第 58 巻 2 号 (2019 年度)	増 減 △
発刊号数	6 号+suppl 2 号	6 号+suppl 1 号	1 号
総頁数	455 頁	529 頁	△74 頁
総説	4 編	2 編	2 編
原著	25 編	21 編	4 編
経験	0 編	4 編	△4 編
症例報告	6 編	2 編	4 編
この症例に学ぶ	0 編	0 編	0 編
Letter to the Editor	1 編	0 編	1 編
会長講演	1 編	3 編	△2 編
特別講演	0 編	0 編	0 編
地方会抄録	0 編	7 編	△7 編
委員会報告	3 編	3 編	0 編
附置研究会報告	0 編	0 編	0 編
総会プログラム・抄録集	105 頁	117 頁	△12 頁
大会プログラム・抄録集	381 頁	296 頁	85 頁

全国集計委員会

担当理事：水口昌伸

委員：今武和弘、大泉晴史、大黒隆司、中島滋美、丹羽康正、藤谷幹浩、松浦隆志、水谷 勝

幹事：宮川国久

委員会開催：なし

1. 2017 年度（平成 29 年）全国集計について

1) 協力施設について

2017 年度より 35 施設ほど減少し、268 施設となった。

2) 集計結果報告について

・2017 年度に比べ、集計数が大幅に減少している。胃がん発見率は 0.072%、要精検率 5.4%と昨年度と比べ差は見られない。大腸がんについても、同じように減少傾向となっている。

・内視鏡検診に関しては 45 万件とやや減少している。2016 年度から自治体による対策型胃がん検診への内視鏡導入がすすんでいるが、今後の精度管理の中で画像のダブルチェックが最も問題となっている。

2. 2018 年度（平成 30 年）全国集計について

・全国集計調査の依頼を行った。集計実施期間は 8 月 3 日から 11 月 30 日までとしたが、集計数が半数に満たなかったため、翌年の 2 月末日まで延長した。

3. その他

・胃がん検診の集計調査については年々、減少傾向にあることから、協力機関に対しアンケート調査を行うこととなった。

認定医制度委員会

担当理事：入口陽介

顧問：一瀬雅夫

副委員長：大西洋英、松田一夫

委員：石川 勉、岡 政志、金岡 繁、杉山和久、戸堀文雄、中島滋美、中島寛隆、日山 亨、平賀聖久、藤谷幹浩

委員会開催：3回（持ち回り3回）

1. 2020年度新規認定医審査

支部審査委員会の結果を踏まえて認定基準を基に審査を行い、下記のとおり承認した。

東北支部 2名 関東甲信越支部 7名 東海北陸支部 7名

近畿支部 2名 中国四国支部 7名 九州支部 4名 計 29名

2. 2020年度新規指導医・指導施設審査

基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認した。

指導医 11名 指導施設 5施設

3. 2020年度認定医更新審査

基準に基づいて認定更新審査した結果、下記のとおり承認した。

認定更新 98名 終身 24名 計 122名

4. 2020年度指導医・指導施設更新結果

基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認した。

指導医 37名 指導施設 13施設

5. 2020年度指導施設状況確認

124施設における認定医・指導医の在籍状況を行ったところ110施設は要件が満たされていた。要件が満たされず保留となった施設は13施設、辞退が1施設であった。

6. 新型コロナ感染の影響による救済措置について

下記の対応をした。

- ・新規総合認定医：単位取得期間を1年間延長
- ・新規認定医：取得期間を1年延長
- ・認定医更新：期日までに手続きを行われない場合、救済措置により自動的に1年延長

試験委員会

担当理事：松田一夫

委員：非公開

委員会開催：4回（Web会議2回、持ち回り2回）

1. 第3回総合認定医試験実施について

新型コロナウイルス感染症の拡大を考慮し、2021年1月10日（日）の試験を3月7日（日）に延期したが、2021年10月24日（日）に再延期した。

現地開催（砂防会館）を予定して準備を進めるが、2021年6月の理事会で、現地で実施するか否かを審議する。現地開催が困難と判断すれば、Webによる試験の準備を始める。

○2020年度（第3回）総合認定医試験申請者への対応

- ・書類は翌年の実施時期に適用
- ・受験料は翌年に持ち越す。ただし、次年度試験日の都合が合わなければ、受験料は返金する。

○申請スケジュールを下記のとおり変更する。

申請書ダウンロード	2021年4月12日（月）～7月12日（月）
申請書締切	2021年4月12日（月）～7月15日（木）
受験票送付	2021年10月上旬（予定）
試験日	2021年10月24日（日）
合格通知	2021年11月中旬（予定）
認定料（2万）入金期間	2021年11月中旬～12月上旬（予定）
認定証発送	2022年3月上旬（予定）
認定日	2022年4月1日

○試験問題

ブラッシュアップ小委員会で選出された問題について確認した。

2. その他

- ・専門医制度を踏まえて試験の向かっている方向について検討が必要である。
- ・過去問題集の冊子製作について提案された。

ブラッシュアップ小委員会

担当理事：松田一夫

委員：非公開

委員会開催：1回（Web 会議 1 回）

1. 第3回総合認定医試験問題について

総論、胃、大腸、肝胆膵の各分野から選出された問題について1問ずつ確認し、各10題を確定し、適切な文章に修正を行った。

主な修正点

- ・「2つ選べ」を減らした。
- ・問題文、選択肢の文をできるだけ短くした。
- ・文言の統一
- ・画像の大きさの確認
- ・重複問題の確認

教育・研修委員会

担当理事：井上和彦

委員：小川眞広、河合 隆、謝花典子、永田浩一、日山 亨、間部克裕、安田 貢、山道信毅

委員会開催：2回（持ち回り2回）

1. 2020年度第1回医師認定研修会について

- 1) 第59回総会（福岡）の2日目午後と3日目午前に開催予定であったが、コロナ感染拡大を考慮し、オンデマンドで配信した。

オンデマンド配信期間：2020年10月1日（木）～12日（月）

受講者：Aセッション 311名、Bセッション 309名

プログラム

・Aセッション：従来どおりの基本的内容

総論（対策型検診の基本的な考え）60分	渡邊能行（京都先端科学大学 健康医療学部看護学科）
胃がん検診（内視鏡含）の総論（30分）	加藤勝章（宮城県対がん協会がん検診センター）
大腸がん検診の総論（30分）	野崎良一（大腸肛門病センター高野病院 消化器内科）
肝胆膵（腹部超音波検診判定マニュアルの改訂について）（30分）	小川眞広（日本大学病院 消化器内科）

・Bセッション：がんについての新たな話題

総論（最近の国際的動向を含めて）（40分）	菊地正悟（愛知医科大学医学部 公衆衛生学講座）
胃X線読影（40分）	安保智典（合同会社メディカル・イメージ・コンサルティング）
胃内視鏡検診（25分）	間部克裕（淳風会健康管理センター）
大腸CT（25分）	永田浩一（福島県立医科大学 消化器内科）
膵がん早期発見をめざして（25分）	井岡達也（山口大学医学部附属病院腫瘍センター）

- 2) 第1回医師研修会の講義をDVDに収録し、各支部医師研修会プログラムにおいて足りない分野については本DVDにて補い、活用していただくことを可能にした。

2. 2021年度第2回医師研修会について

第60回総会（東京）時のプログラムを企画した。受講料は半日7,000円、全日12,000円に改正した。

プログラム

・Aセッション：消化器がん検診の最前線

胃X線検診の最前線（30分）	伊藤高広（奈良県立医科大学 放射線・核医学科）
上部消化管内視鏡検診の最前線（30分）	青木利佳（とくしま未来健康づくり機構 徳島県総合健診センター）
スクリーニングとしての全大腸内視鏡検査の可能性（30分）	鈴木康元（松島病院大腸肛門病センター 松島クリニック）
肝炎ウイルス対策の最前線（30分）	熊田 卓（岐阜協立大学 看護学部）
救命可能な膵がん発見をめざして（30分）	田中幸子（大阪がん循環器病予防センター）

・Bセッション：消化器がん検診の基本

がん検診総論（60分）

松田一夫（福井県健康管理協会）

胃がん検診総論（30分）

井上和彦（淳風会健康管理センター）

大腸がん検診総論（30分）

西田 博（アムスニューオータニクリニック）

肝胆膵スクリーニング総論（30分）

乾 和郎（山下病院）

3. 医師研修会の e-learning について

総会が現地開催の場合は、医師研修会も現地で開催し、その講義内容を後日 e-learning で配信する。なお、総会がハイブリッドあるいは完全 WEB 開催の場合は、医師研修会はオンデマンドで配信し、e-learning は実施しない。

配信内容：医師研修会 A、B + 各講義 2 問

受講料：20,000 円

学会賞受賞者選考委員会

担当理事：濱島ちさと

顧問：森山光彦

委員：大西洋英、謝花典子、古田隆久、松田尚久

委員会開催：1回（WEB会議）

1. 学術奨励賞、有賀記念学会賞の規定改正について審議した。
2. 日本消化器がん検診学会雑誌の掲載論文の中から優れた論文を委員より推薦を受け、選考を行い、理事会に答申した。

《受賞者と対象論文》

八坂 貴宏（長崎県上五島病院外科）

対象論文：全大腸内視鏡検査が困難な地域における大腸がん検診精密検査法としての大腸CT検査の有用性（58(2)）

高山 歳三（斗南病院腫瘍内科）

対象論文：大腸癌症例からみた精密検査法としての大腸CT検査の有用性とC-RADS評価の妥当性についての検討（57(6)）

太田 洋一（宮城県対がん協会）（放射線技師）

対象論文：生活習慣病健診の胃X線検査における線量評価の基礎的検討（58(2)）

胃がん検診精度管理委員会

担当理事：加藤勝章

委員：安保智典、伊藤高広、小田丈二、鎌田智有、平川克哉、水口昌伸、吉村理江、山道信毅

委員会開催：1回（持ち回り1回）

1. 偶発症調査について

- 1) 平成 29 年度胃がん検診偶発症アンケート調査報告を 59 巻 1 号に掲載した。
- 2) 平成 30 年度胃がん検診偶発症アンケート調査を全国施設協力施設に依頼した。
- 3) 咳嗽、発熱の「不明」の取扱いについて検討を行い、「不明」は「無」に計上し、下記のとおり対応する。

・平成 30 年度胃がん検診偶発症アンケート調査報告の記載

咳嗽

無 ●% → 無※ ●% ※不明を含む

発熱

無 ●% → 無※ ●% ※不明を含む

・平成 31 年度胃がん検診偶発症アンケート調査より注釈を追加する。

咳嗽※ → 不明な場合は無に計上する

発熱※ → 不明な場合は無に計上する

- 4) 平成 30 年度胃がん検診偶発症アンケート調査報告より X 線の年齢階級別分布については折れ線グラフでなく棒グラフに変更し、内視鏡の発生頻度は棒グラフを併記することになった。

大腸がん検診精度管理委員会

担当理事：野崎良一

副委員長：鈴木康元

顧問：斎藤 博、樋渡信夫

委員：金岡 繁、関口正宇、只野敏浩、永田浩一、西田 博、松浦邦彦、松田一夫、松田尚久、山口和也

委員会開催：2回（WEB開催）

1. 大腸がん検診マニュアル（2013年）改訂について

- ・ 現行の大腸がん検診マニュアルは、2013年4月1日に発行されたものであるため、新しいエビデンスを含む、内視鏡検診および大腸CT検査について主眼を置いた新しい大腸がん検診マニュアルを発行することになった。
- ・ 現行のマニュアルの全体を見直し改訂版を作成し、オンラインジャーナル中に委員会報告として入れ、J-stage、Kalibなどに掲載する方向で検討する。
- ・ 目次と原稿の執筆担当者とチェック担当者が検討、決定された。
- ・ 2021年度中の完成を目指す。

2. 厚生労働省 未承認薬・定期外訳検討会議について

- ・ アミドトリゾ酸ナトリウムメグルミン液に関して、厚生労働省 医学・生活衛生局医薬品審査管理課とのWEB会議が2回（6月26日、7月3日）行われたが、現在のところ、承認には至っていない。

検診従事者委員会

(委員構成：支部推薦の認定医、認定技師、保健師)

担当理事：松浦邦彦

委員：萩原 武・小牟田学・小野寺紀代美（北海道） 千葉隆士・大友義孝・山田美穂（東北）
小田丈二・見本真一・小川敬子（関東甲信越） 丹羽康正・西川 孝（東海北陸）
伊藤高広・藤山孝之・池宮城賀永子（近畿） 安田 貢・大久保誠（中国四国）
満崎克彦・石本裕二・池田晶子（九州）

委員会開催：7回（内、持ち回り7回）

1. 2021年度総会（東京）放射線フォーラムについて

1) プログラム

- ・シンポジウム「読影補助のエビデンスに向けて—現状の課題と今後の普及を目指して」
- ・症例検討会

2) 司会は、関東甲信越支部の小田丈二医師委員、見本真一技師委員が推薦された。

2. 第5回胃がん検診専門技師研修会について

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑み現地開催を中止し、オンデマンド配信によるWeb開催となった。配信期間は2020年10月18日（日）～11月1日（日）までの2週間とした。参加者人数は727名であった。

プログラム

- ・講義 I 「胃X線検査を安全に行うために」～装置管理のポイント～
講師：小牟田学
- ・講義 II 「胃がん検診における所見チェックのポイントと追加撮影の工夫」
講師：高橋伸之
- ・教育講演 I 胃X線像読影の技法と理論「読影理論入門」
講師：吉田諭史
- ・教育講演 II 「胃X線検診のための読影判定区分について」
講師：安保智典
- ・症例検討「粘膜判定・カテゴリー判定のトレーニング」
講師：千葉隆士

3. 2021年第6回胃がん検診専門技師研修会について

下記要綱にて開催することとなった。

日時：2021年10月17日（日）～11月1日（日）

場所：オンデマンド配信

対象者：日本消化器がん検診学会 胃がん検診専門技師認定資格保有者および更新保留中の者

受講料：5,000円

定員：400名

申込期間：2021年6月1日（水）～8月30日（木）予定

申込方法：オンライン事前申込

付与単位：胃がん検診専門技師認定更新6単位

実行委員長：松浦邦彦（日本消化器がん検診学会 検診従事者委員会委員長）

代表世話人：満崎克彦、石本裕司（九州）

世話人：萩原 武、小牟田学（北海道）、千葉隆士、大友義孝（東北）、小田丈二、見本真一（関東甲信越）、丹羽康正、西川 孝（東海北陸）、伊藤高広、藤山孝之（近畿）、安田 貢、大久保 誠（中国四国）

会計監査：伊藤高広

4. 胃がん検診専門技師認定新規及び更新対象者の新型コロナ感染の影響による救済措置について

- ・新規申請者：B資格合格証明証の有効期限を6年とした。取得期間を過去4年間とした。
- ・更新対象者：期日までに手続きが行われない場合、救済措置により自動的に1年延長とした。
- ・保留対象者：更新保留期間を最長3年までとした。

胃がん検診専門技師認定委員会

(委員構成：保健師を除く検診従事者委員が兼務)

担当理事：松浦邦彦

委員：萩原 武・小牟田学（北海道） 千葉隆士・大友康孝（東北） 小田丈二・見本真一（関東甲信越）
丹羽康正・西川 孝（東海北陸） 伊藤高広・藤山孝之（近畿） 安田 貢・大久保誠（中国四国）
満崎克彦・石本裕司（九州）

委員会開催：2回（うち持ち回り2回）

1. 2020年度認定審査結果

1) 基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認された。

申請者 261名（合格者 261名）

2) 261名に認定証を交付した。

2. 2020年度認定技師更新審査結果

1) 基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認された。

更新該当者 511名（合格者 394名、認定保留 90名、不合格者 3名、認定取消 24名）

なお、不合格者 3名は、審査料を翌年のみ繰り越すことを認める。

2) 更新合格者 394名に認定証を交付した。

3. 更新単位「その他主催」研究会・研修会

1) 以下の研修会が承認された。

NPO 日本消化器がん検診精度管理評価機構 中国四国支部胃 X線撮影基礎講習会（中国四国）

超音波検診委員会

担当理事：平井都始子

顧問：田中幸子

委員：乾 和郎、岡庭信司、小川眞広、小島正久、中島美智子、水間美宏、三原修一

各支部委員：久居弘幸、千葉祐子（北海道） 小野寺博義、佐藤 務（東北）

若杉 聡、鳥海 修（関東甲信越） 廣岡芳樹、西川 徹（東海北陸）

西村重彦、森 雅美（近畿） 眞部紀明、渡邊敏充（中国四国）

西 潤子、平賀眞雄（九州）

委員会開催：なし

1. 腹部超音波検診判定マニュアル 2021 年改訂版については腹部超音波検診判定マニュアルの改訂に関するワーキンググループで検討を行った。

胃 X 線読影補助認定委員会

担当理事：加藤勝章

委員：安保智則、井上和彦、入口陽介、松浦邦彦、山道信毅

(e-learning 小委員会：山道信毅(幹事)、青木利佳、安保智典、井上和彦、入口陽介、伊藤高広、小田丈二、萩原 武、加藤勝章、千葉隆士、満崎克彦、安田 貢)

委員会開催：3回(うち Web 会議 2 回、持ち回り 1 回)

1. 2020 年度読影補助認定審査結果について

1) 基準に基づいて審査した結果、下記のとおり承認された。

申請者 126 名(合格者 125 名)

2) 126 名に認定証を交付した。

2. 2021 年度読影 e-ラーニング講習について

1) 講義

講義内容の変更なし。

2) 症例問題

2020 年度受講者の正答率の提出を委託業者に依頼した。Web 会議にて、誤答率の高かった問題の見直しを行い、回答の修正を行った。

大腸 CT 検査技師認定委員会

担当理事： 野崎良一

副委員長： 永田浩一

顧問： 斎藤博

委員： 富松英人、服部昌志、松本啓志、安田貴明、高林 健、遠藤俊吾、八坂貴宏、松浦邦彦、松田尚久

委員会開催： 2回（1回 WEB、1回持ち回り）

1. 大腸 CT 検査技師認定制度施行細則の一部を改正した。

- ・大腸 CT 検査技術認定資格に関する条項（改正日： 2020 年 6 月 11 日）
- ・更新申請資格に関する条項（改正日： 2020 年 6 月 11 日）
- ・大腸 CT 検査技術認定施設の申請手続きに関する条項
（改正日：2021 年 3 月 19 日 実施開始 2021 年 7 月 1 日）

2. 2020 年第 1 回大腸 CT 検査教育研修会・大腸 CT 検査実践トレーニングコースプログラムを実施した。

実施形態：オンデマンド配信

配信期間：2020 年 10 月 1 日（木）～12 日（月）

申込者人数：大腸 CT 検査教育研修会：318 名

大腸 CT 検査実践トレーニングコース：285 名

3. 2020 年度第 1 回大腸 CT 検査技師認定を実施した。

申請者：251 人

認定者：246 人

保留者：5 名

- 保留者内訳：
- ・ 学会在籍に数不足の 2 名は、2021 年度の認定に回し、有効年度は 2020 年度の申請者と同じとする
 - ・ 撮影実績不足の 3 名は、1 年間審査を保留とすることになり、この 1 年間に、「30 件の撮影実績」、または「10 件の撮影実績および実践トレーニングコース受講」をもって、認定することとなった。

腹部超音波検診判定マニュアルの改訂に関するワーキンググループ

担当理事：平井都始子

委員長：小川眞広

顧問：小野寺博義、熊田 卓、小島正久、田中幸子、中島美智子、水間美宏

委員：乾 和郎、岡庭信司、田中信次、千葉祐子、西川 徹、西村重彦、三原修一、依田芳起

外部委員：足立雅樹、新 智文、和田高士

委員会開催：5回（Web 会議 2 回、持ち回り 3 回）

1. 第 4 回ワーキング会議（WEB）

- ・第 59 回日本消化器がん検診学会総会「超音波フォーラム」の「マニュアル改訂のポイントと現状報告」の発表内容を基に最終合意を行った。
- ・「本マニュアル作成の一部は厚生労働科学研究費補助金 循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業 20FA1021 の交付を受けたものです。」の記載について了承を得た。
- ・本会議の議論を踏まえた最終案を各理事会に諮り、各学会でパブリックコメントを実施し、その結果を本 WG で検討する。

2. 第 5 回ワーキング会議（WEB）

1) パブリックコメントについて

- ・各学会に寄せられたパブリックコメント（日本消化器がん検診学会 1 件、日本超音波医学会 3 件、日本人間ドック学会 12 件）について検討を行った。
- ・パブリックコメントの回答を 3 学会に送付した。

2) 判定区分「C」について

「C：要再検査（3・6・12 か月）・生活改善」で了承された。

3) 腹部超音波検診判定マニュアル 2021 年改訂版（最終案）の合意を得たので、各学会の理事会に諮る。

胃 X 線検診における DRL（診断参考レベル）策定小委員会

担当理事：加藤勝章

副委員長：松浦邦彦

委員：伊藤高広、水口昌伸、石本裕二、大久保誠、大友義孝、小牟田学、藤山孝之、西川 孝、見本真一

招集委員：重松 綾、山本賢右

外部委員：小田雄二

委員会開催：なし

1. DRL の指標について

単施設の予備調査結果より、対策型胃がん X 線検診に対する DRL の指標として、推奨線量の設定と透視時間の管理幅を求める必要性が示唆されている。昨年度来の COVID-19 蔓延状況を踏まえ、多施設による検討を行っていきたい。

対策型胃内視鏡検診の精度管理に関するワーキンググループ

委員長：加藤勝章

委員：安保智典、小田丈二、雑賀公美子、中山富雄、平川克哉、町井涼子

委員会開催：なし

1. これまで胃内視鏡検診に関して学会に寄せられた質問ならびに回答について整理した。今後、国立がん研究センターに寄せられた自治体からの質問等も合わせて制度管理上の問題点を整理し、マニュアルの補遺・改訂などについて検討する。